

インフォメーションディスプレイ Vol.32



三井物産株式会社
人事総務部 総合調整室
室長

筆口 秀一郎 様

三井物産株式会社 様

日本を代表する総合商社、三井物産株式会社様のビジネスフィールドは、まさしくグローバル。関わるビジネス分野も多岐にわたります。この度、本店と国内3支社に導入された「テレビ会議システム」は、広大なビジネスフィールドで動き続ける仕事を、コミュニケーションの側面からバックアップしています。



所在地・東京都千代田区

ここは、世界に開かれた会議室。
距離を感じさせないコミュニケーションが実現しました。

PN-G655×7台
(本店)
PN-465×3台
(支社)
導入

国内外に多くの拠点、グループ企業、顧客、パートナーを擁するグローバル企業にとって、テレビ会議は日常業務に欠かせないコミュニケーションツール。三井物産様の場合も、テレビ会議システムの整備は急務でした。

「ここ数年、テレビ会議のニーズが増え、本店の2カ所のテレビ会議室は常に予約でいっぱい状態。そこで、本店会議室フロアの改装を機に、本格的にテレビ会議システムの導入に踏み切りました。」

本店では、既存の2室に加え、5室を増設。また、国内の関西・中部・九州支社に各1セットを新設。使用形態を検討した結果、社内だけでなく、海外も含めた社外とのやりとりが容易に行えるよう、インターネット回線を使用し、世界とつながる会議室を整備しました。

「現在は、お取引先や海外拠点とのやりとりが中心ですが、支社にも導入したことで、今後は社内の使用が増えるの見込んでいます。」

本店内7カ所のテレビ会議室は、時間帯によってはフルに稼働。今日も、世界に開かれた会議室で、世界を動かす仕事が進行しています。



臨場感がある大画面のテレビ会議。本店・支社間のように遠隔地であっても、居ながらにして会議に参加できる。フェイス・トゥ・フェイスで話し合うと、話が早い。



導入時の評価ポイント

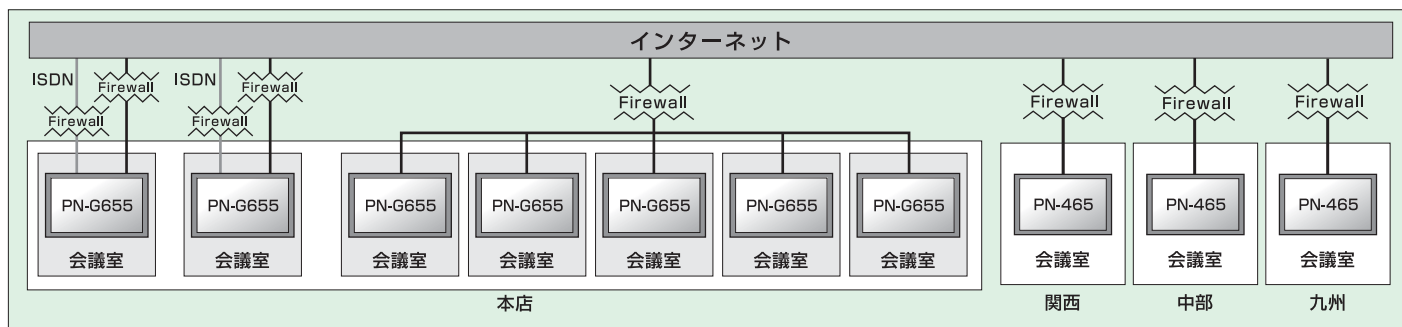
■ 広くて静かな会議室にもマッチする
■ ファンレス設計・迫力の大画面

■ きめ細かな情報表示を可能にする
■ フルスペックハイビジョン

■ どの方向からも見やすい
■ 上下左右176°の広視野角

■ 明るい会議室でもくっきり見られる
■ ASV低反射ブラックTFT液晶

■ システム概略図



導入の経緯

見やすく使いやすい大画面

業務用ディスプレイならではの信頼性と耐久性が決め手に

これまで本店で使用していたテレビ会議システムはプロジェクタータイプで、外光が入ったり、画面を分割したりしたときに、表示が見にくいと指摘されていました。「もっと見やすいもの」という要望を受け、まず『PN-G655』を1台、テスト的に購入したところ、大変好評でした。広い会議室のどの方向からでも見やすいこと、また高密度な情報もきめ細かくくっきりと表示でき用途が広いこと、省エネが実現できた

ことも評価のポイントになりました。」ひと言にテレビ会議といっても目的はさまざま。インフォメーションディスプレイは、複数拠点(4拠点まで)を同時につないで使う、PCのデータを表示してプレゼンテーションをするなど、さまざまなシーンに対応できます。「大画面テレビをディスプレイに使うことも検討しましたが、会議には適さない判断しま

した。やはり業務用ディスプレイのより高い信頼性を重視しました。」見やすさと、機能性、耐久性、信頼性の高さが、採用の決め手になったようです。

導入後の感想

遠隔地とのコミュニケーションが進化

日々刻々と変化するビジネス環境に素早く対応していくために、会議という業務をスリム化する。テレビ会議のメリットは、迅速な業務連絡、意思疎通の円滑化、ひいては意思決定の迅速化、生産性アップと、数々あげることができます。「遠隔地の関係者が一堂に会するのは、移動時間ひとつとっても効率的とは言えません。まず第一に、時間とコストをセーブできることは大きなメリットですね。」

また、その場で顔を合わせているかのように会話ができる、臨場感の効果は計り知れません。電話や電子メールでは伝わらないことがスムーズに通じる、拠点間の横のコミュニケーションが活発になるなど、テレビ会議によりワークスタイルが変わっていくかもしれません。



高精細、かつマルチウィンドウで表示できるのも、大型のインフォメーションディスプレイならではの。



ピクチャー・イン・ピクチャー、4分割、PCデータ表示などの機能はリモコンで簡単操作。POLYCOMテレビ会議システムを使用。

今後の展開予定

映像の力で会議室の概念を変える

「いままでの会議室は、無機質なただの箱でしたが、いまはテレビ会議をはじめ、いろいろな機能が求められています。ニーズに合わせて、機能性を持たせた会議室を設ける計画を、推進していく予定です。重視しているのは、映像をどう取り入れていくか、

です。直近では、本店内に大人数を収容できるプレゼンテーションルームを設ける計画があります。」正面には、ホワイトボードのように書き込みができるガラスの大スクリーン。サイドの壁には、65インチのインフォメーションディス

プレイが3台並びます。映像の力を活用して、見せる、伝えるカンファレンスを。新しいコンセプトが、また一つカタチになろうとしています。

● お問い合わせは

シャープ株式会社

情報通信事業本部 ビジネスソリューション事業部
電話：(03)3260-8217 / (0743)55-6373

2008年5月発行